奈 良 女 子 大 学 附 属 学 校

Newsletter

附属学校ニュースレター　　第19号・2014年　春

就任のご挨拶

附属小学校長　成瀬　九美（生活環境学部）

4月より附属小学校長をお引き受けすることになりました。この1ヶ月、日和佐副校長が小学校の年間行事予定表の中につけてくださった赤い丸印を頼りに、小学校と大学の間で身を移動させているうちに、私の肩はパンパンに張ってしまいました。体は正直なものです。「小学校には慣れましたか」と学内で言葉をかけていただきますが、小学校では、階段で足を踏み外しそうになったり（段差が低いです）、廊下で前から来る子どもとぶつかりそうになったり（右側通行です）しています。いろいろな場面で私の体がキャッチする感覚を取り上げて、ときにはそれを懐かしく思いながらスタートしているところです。

先日、快晴のもと、春の運動会が行われました。この行事は1年生を迎えた良い季節に、6学年揃ってなかよしを深める目的があり、リレー競技とつなひきを中心としたプログラムで構成されています。おもしろいなと思ったのはリレー競技での仲間との協力の仕方です。スタート地点から直線を往復するこの競技では、往路は平均台の上を歩いたり、ハードルを飛び越えたり、いくつかの障害物をこなして走り、復路はまっすぐに走って次走者にバトンタッチします。次々と障害物をこなして走る子どもたちの身軽さに感心しながらも、走路の周囲には競技を補助する係の子どもの姿がありませんでしたので、もし、ハードルが倒れたら誰が立て直すのだろう、これでは競技の進行が滞るのではないか、と私は少し心配に思っていました。

見ていると、ハードルを元に戻すのは同じグループの子どもたちでした。誰が、と決まっている様子でもなく、気がついた子どもが立て直しに行っているようでしたし、また、仲間による立て直しがない場合（間に合わない場合）は、倒した本人が復路の途中に自分で戻して、競技は途切れることなく進行していました。私の見たことが、競技全体の公平性を保つルールとして子どもたちに合意されているのかについては小学校の先生方にお尋ねしたいと思いますが、それにしても、集団行動の中に垣間見たひとりひとりの異なる行動は、「個とグループの関係」に興味のある私には印象深いものでした。

さて、4月に行われたいくつかの行事を通じて、附属学校園の連携が進んでいることを実感します。幼稚園との合同の入園・入学式では、手をつなぎ、幼稚園は保護者と会場入り口から、小学校は6年生と壇上から入場していて、それぞれの発達への配慮と工夫がありました。昨年度のゼミ生が、幼稚園での集団移動を観察して、子どもが他者と並んで歩けるようになるまでの過程を卒論にまとめたところでしたので、1年生と6年生は、パートナーとしてお互いを受け入れて、その手をつなぎ合っている姿に見えました。中等教育学校説明会では、吉田副校長と武田副校長から具体的なお話を伺う中で、小学校での学びがその先で深化し、中等教育学校に用意された様々なチャンスに出会って個性的に根づく姿を展望することができました。また、育友会総会のときには、本学の男女共同参画推進機構が構築しているイベント託児システムが活用されていることも知りました。

大学も含め、伝統あるそれぞれの学校園が育み創りだしている「良いもの」が、そこに通い学ぶ人を通じて継承されていくことの意義や、また、それが無理なくつながっていくことの大切さを感じます。微力ながら、少しでもそのお手伝いができればと考えています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

第３回幼稚園・小学校合同入園入学式

本学附属幼稚園と小学校は、平成26年4月10日に第3回入園・入学式を行いました。

幼稚園の遊戯室とは比べ物にならないほど広い体育館。3歳児や4歳児が少しでも楽しい雰囲気を感じてくれるようにと、6年生が手作りの装飾で体育館の壁を飾ってくれました。その優しさのつまった体育館で、入園・入学式が始まりました。今年は、1年生の呼名をぜひ式の中で行いたいと考え、はじめのことばを言った後に、1年生がペアの6年生とともに、一人ずつ名前を呼ばれて返事をし、舞台中央から入場しました。続いて、4歳児・3歳児が付添の保護者とともに入場し、着席後、担任が新入園児の名前を紹介しました。

大人の挨拶中には少し場もざわざわしていたのですが、6年生代表児童の「お迎えのことば」が始まったとたん、会場が驚くほど静かになり、3歳児・4歳児・1年生もお兄さん・お姉さんのことばを真剣に聞いていました。子どものことばが子どもの心に響くのだなと、子どもの力に改めて感心しました。それから、5年生・6年生の歌のプレゼントがありました。その歌声がほんとうに美しく澄み切っていて、保護者の方も感動したのでしょう、思わず涙する場面がありました。子どもにとっても、保護者にとっても、6年後・8年後・9年後の成長の姿を見ることができ、これから、この奈良女子大学附属幼稚園・小学校で過ごすことに期待をもったのではないかと思います。そして、その子どもたちの命をお預かりするのだと新たな気持ちで幼稚園・小学校の教師たちも子どもたちを見守っていました。幼小一貫教育が根付いてきたと感じた入園・入学式でした。

中等教育学校入学式

4月9日に晴れて新入生120名を迎え、入学式を挙行致しました。

本校では、長年、入学式は新入生を前期課程生が迎え、卒業式は後期課程生が卒業生を送り出すという慣例で行われています。今年度は、初めて入退場の行進を、器楽部有志による演奏によって行われました。音楽の多賀秀紀教諭の指揮のもと、器楽部24名がヘンデルの「水上の音楽」を演奏する中、新入生が入場しました。

武田章副校長の開式の辞に続き、国歌斉唱があり、新入生の氏名呼上に移り、全員が元気よく返事をし、髙田将志校長から入学許可の宣言がありました。その後、髙田校長の式辞では、自由・自主・自立の意味を噛み締めて6年間の学校生活を送ってくださいとのエールが送られました。

続いて、前期課程生徒会長の中嶌日向子さんが、歓迎の挨拶として、自分がどんな学校生活を送ってきたのかを、授業や行事、クラブ活動への取組を中心に新入生にわかりやすく語りかけました。それに応えて、新入生代表の井家由比花さんと森大地くんの二人が不安の中にも希望に胸躍らせる心境を率直に述べる挨拶をしました。

その後、新入生・在校生・教職員が、2年生の長野愛実さんの演奏による「学友の歌（三）」を二番まで斉唱しました。最後の新入生退場では、エルガーの「威風堂々」が演奏される中、新入生は胸を張って退場し、厳粛な雰囲気の中にも喜びあふれる式となりました。

４月から着任しました！

附属幼稚園　越智　裕子

はじめまして。昨年度まで、奈良県内の公立の幼稚園に勤務していましたが、今年度から本園で勤務することになりました越智裕子です。実は、私が幼稚園教諭をめざすきっかけとなったのが、本園での教育実習であったため、とても感慨深いものがあります。今でもその時に指導してくださったことや、かかわった子ども達の様子を思い出し、日々の保育につなげている毎日です。今まで学んできたことを生かしつつ、本園での新たな学びも吸収しながら、心機一転して子ども達と一緒に成長していきたいと思います。

附属幼稚園　松島　英恵

鎌内先生の代替教諭として、4月から来させていただいております。年長児つき組担任になりましたが、「先生、わからへんやろ？教えたるわ」「松島先生かあ、マシュマロ先生ってどう？」など進級して意欲満々の子どもたちに支えられ、互いに探り合いを楽しみながら過ごしています。教育実習でお世話になって以来の奈良女子大学附属幼稚園ですが、自然豊かな環境のもと、学生時代の気持ちも共に振り返りながら、改めて幼児教育で大切にしたいことを学びなおしたいと思います。よろしくお願いします！

附属小学校　中野　直人

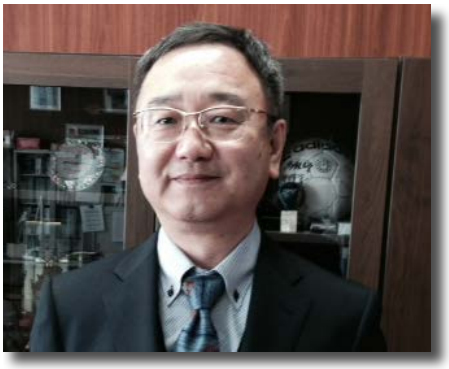
はじめまして。本年、附属小学校に着任しました中野直人です。理科が研究教科です。昨年度までは大阪府の小学校で勤務していましたが、縁あって歴史と伝統のある本校に来させていただきました。

趣味は学生から続けている合気道です。今も毎週大阪市にある道場に通って汗を流しています。本学にある合気道部の道場にも稽古に来たことがあります。

私の本校での生活はこれからです。附属小学校の子どもの育ち、そして「奈良の学習法」に学び、子どもたちと共に成長したいです。毎日を楽しみにしています。よろしくお願いします。

附属小学校　飯島　真理

奈良女子大学、同大学院において、教育学を学んだ私にとって、附属小学校は、教師としての原点であり憧れの存在でした。目を輝かせ、主体的に課題に迫っていく子どもたちの姿が、今でも目に焼き付いています。まさか本校に、自分が勤務することが叶うとは思っておらず、その伝統と歴史を考えると、身が引き締まる思いです。しかし、なによりも笑顔で温かく接すること、日々の小さな成長を喜ぶことを忘れず、子どもとともに温かな教育をつくっていきたいです。これから、よろしくお願いします。



新副校長の一ヶ月

附属中等教育学校　武田　章

毎年4月は「新しく出会う生徒たちとの授業をどのように始めようか」とワクワクドキドキしながら迎えたものですが、今年は新着任の先生方への「学校概要説明」から始まり、あんまりワクワクしませんでした。

また、不慣れな背広ネクタイを着ける機会が多くなったため、肩が凝って仕方がありません。近々初めてマッサージに行こうと決意してます。

さらに、まだたった一ヶ月ほどしか経ちませんが、様々な方々が色々な相談事や案件で来室されます。

大先輩の故吉田裕副校長がむかし「副校長というのは教職員みんなの担任みたいなもんや」とおっしゃっていたことや、吉田信也前副校長が「副校長になったときには、それまでとは異なった職種に就いたものと認識した」とおっしゃっていたことが思い出され、「なるほど、こういうことだったのか」と徐々に実感している昨今です。横では吉田現副校長がそれらの仕事をばりばりとこなしていっています。（どうやら「吉田」姓の人は本校の副校長になる事になっているようだ？？？）

授業もありませんので、生徒諸君と接する機会は激減して残念至極なのですが、生徒が6年間の学校生活を出来るだけ安全に充実して過ごしていけるように、また教職員のみなさんが少しでも働きやすい環境を創っていけるように、微力ながら尽くしていきたいと思います。

生徒とともに「自由」を考えたい

附属中等教育学校　神徳　圭二

本年度より附属中等教育学校に着任いたしました神徳圭二と申します。教科は国語を担当いたします。

私は前年度まで、大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎に勤務しておりました。同じ「附属」というカテゴリーなので共通している部分ももちろんありますが、こんなにも異なっているのかという部分もあり、発見や感動や戸惑いを感じながら、日々勤めております。

私も、生徒・保護者の皆様や諸先生方と同様、附属学校の持つ自由な学校文化に強く心惹かれております。　とはいえ、私自身が受けた教育は必ずしも「自由」と呼べるものではありませんでした。ですから、私には「自由な中高生活」という経験はないはずなのに、私は日々、本校の校風を心地よく思い、微力ながらも何とか勤しむことができています。

これはもちろん、私の資質の問題ではなく、本校の持つ「異質な他者を受容する柔軟さ」に私が助けられた結果なのです。自由の定義は様々ですが、私は本校の自由さの一つに「多様性を受容する心」があるのでは、との私見を持っています。

生徒諸君がしなやかな知性と豊かな感受性を身につけることができるように、指導・支援にあたっていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

教師一年目

附属中等教育学校　藤井　正太

この春から附属中等教育学校でお世話になっています。担当は社会科、歴史（日本史）が専門です。

教師1年目。5年生の担任、日本史と現代史の授業、進路指導部、サッカー部の顧問、学園祭などなど・・・。すべてが初めての経験で、日々「未知との遭遇」です（ちなみに、初めての1人暮らしも「未知との遭遇」の連続です）。とにかく、周りの先生方の助けを得ながら無我夢中で駆け抜けた1ヶ月でした。

生徒が、修学旅行や学園祭、全校レク、球技大会などを自分たちで企画している様子を担任として見ていると、「自由・自主・自立」の意味を咀嚼し、吸収しつつあると頼もしく思います。そんな彼らの進路実現、自己実現を「若さ」（？）を武器にサポートしていきたいと思います。

長年暮らした故郷・京都の歴史や文化への愛着を（時に「ナショナリズム的」と揶揄されながら）持っていましたが、まさか、さらなる古都・奈良で教壇に立つとは、と不思議な縁を感じています。歴史教育・歴史認識をめぐっては、昨今アジア諸国をはじめ国内外で大きな問題となっています。歴史学習を通じて、現代社会において歴史を学ぶことの意義、つまり歴史的な視点で社会をとらえる力を育んでいきたいと思います。